県南教育事務所
教　育　情　報

南風 NANPU

令和５年２月 27 日（月）
Ｎｏ．15　【通巻 第 198 号】
文責：教務課指導班

岩手県小・中学校学習定着度状況調査の結果から

岩手県教育委員会では、「いわて県民計画（2019～2028）」第１期アクションプランの指標に関わる５項目（コア・ファイブ）の積極肯定回答（「行っている」「している」という１番回答）の割合を注視し、各学校の取組の充実を図っています。令和４年 10 月に行われた岩手県小・中学校学習定着度状況調査の結果から、県南教育事務所管内の小・中学校において、積極肯定回答の割合が前年度に比べて向上している項目があることが明らかになりました。特に、中学校では「自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書く指導をすること」について、小学校では「今年度の全国学調の自校の分析結果から見えたつまずきに対応した授業改善を行うこと」について、学校全体で意識を高めて日々の教育活動を推進している学校が多いことが分かりました。

コア・ファイブ項目	積極肯定回答（県南）	
児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。	Ｒ３	Ｒ４
	小学校	
	27.4	29.0(+1.6)
	中学校	
	29.6	**33.3(+3.7)**

コア・ファイブ項目	積極肯定回答（県南）	
本年度の全国学調の自校の分析結果から見えた児童生徒のつまずきに対応した授業改善を行っていますか。	Ｒ３	Ｒ４
	小学校	
	21.5	**51.6（+30.1）**
	中学校	
	25.9	25.9（±0）

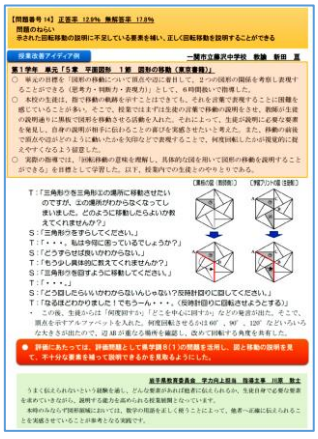
一方、次の調査問題で、特に「無解答」が多いことが明らかになりました。

小学校（県南）	国語	・　目的に応じて必要な情報を見付けて読み、条件に合わせて理由を**書く**問題
	算数	・　２つのグラフを正しく読み取り、予想が間違えている理由を**説明する**問題
中学校（県南）	国語	・　文章の展開を確かめながら要旨を捉え、条件に合わせて言葉を**書く**問題
	数学	・　作図することができた理由を、正三角形であることを指摘することで**説明する**問題

学習の基盤となる言語能力を育成することは、岩手県教育委員会「確かな学力育成プロジェクト」全県共通取組の一つとなっています。「説明すること」「書くこと」の指導の充実及び徹底を図るなど、意識して児童生徒の言語能力を育成していくことが、今後も更に求められます。教育課程全体において児童生徒が説明したり書いたりする場面等を意図的に設定しているか、児童生徒の学習ノート・１人１台端末等にはどのように学びの記録が残っているか等を振り返り、言語能力の育成を意識した指導を着実に積み重ねていきたいものです。

各小・中学校において、自校の諸調査結果（学習定着状況）の分析から、成果とともに課題が明らかになったことと思います。児童生徒の学力向上、「できた」「わかった」という笑顔に向けて、諸調査結果を積極的に活用した指導改善・組織的取組の更なる推進をよろしくお願いいたします。

『指導改善の手引き』の積極的活用を

令和４年 12 月に、岩手県教育委員会から令和４年度学習定着度状況調査指導資料『指導改善の手引き』が発行され、各小・中学校にデータで送付されました。調査問題と日々の授業をつなぐアイディア例が満載の手引きとなっています。今年度の調査結果から明らかになった課題に着目し、日々の授業を通して児童生徒の資質・能力を育むことは、極めて大事なことです。

『指導改善の手引き』は、岩手県教育委員会ホームページからもダウンロードできますので、校内研修・日々の授業づくり等で積極的にご活用ください。